

注意！

■この記事は発行年月日時点の内容のまま公開していますので、ご覧になった時点の法規制（農薬使用基準等）等に適合しなくなった内容を含む可能性がありますから、利用にあたってはご注意ください。

農作物技術情報 第8号 畑作物

発行日 平成23年10月28日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ（電話 0197-68-4436）

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコンからは「<http://i-agri.net>」 携帯電話からは「<http://i-agri.net/agri/i/>」

◎お知らせ

全県で大豆の安全性を確認するための放射性物質調査を実施しており、間もなく（11月上旬）、岩手県のホームページ等を通じて調査結果をお知らせする予定です。それまでの間、出荷・販売・譲渡等は行わず、市町村ごとに区分して管理するようお願いいたします。

（問い合わせ先：県庁農産園芸課 019-629-5708）

- ◆ 大豆：収穫が本格化しています。天候を考慮して早めの収穫を心がけましょう。
- ◆ 小麦：播種が早かったところでは、出芽も良く生育は順調です。土壌処理剤を散布していない圃場は茎葉処理剤を遅れずに散布しましょう。また適期に麦踏みを行い、凍上害や倒伏を回避しましょう。越冬後の融雪対策のため排水路の点検を行い、整備しておきましょう。

大豆

適期刈り取りの励行

刈り遅れるほど腐敗粒等の被害粒の発生が多くなり、品質低下の原因となります。刈り取りがまだの方は、茎水分や子実水分を確認のうえ、早めに刈り取りを行いましょ。

小麦

1 雑草防除

土壌処理剤を散布していないほ場では、茎葉処理剤を小麦の生育、雑草の発生状況に応じて遅れずに散布しましょう。また、除草剤によって使用方法・使用時期が異なるので、ラベルをよく読んで使用してください。

2 麦踏み

麦踏みは表1にあるように茎数の増加や倒伏防止などに大きな効果があります。特に、積雪が少なく土壌の凍結が強い地帯や土壌が軽い火山灰土などでは特に有効です。

ただし、圃場が乾いていることが実施の前提条件となるので、排水不良のほ場や土壌水分が高い場合、あるいは砕土率が極端に低い場合は実施しないようにしてください。

※麦踏みの実施方法・実施時期

- ア 鎮圧ローラーやタイヤなどを用いる。
- イ 実施時期は、越冬前の4～6葉期、または雪解け後の茎立ち前。
- ウ 回数は、暖冬年で3～5回、寒冬年で2～3回。

表1 麦踏みの主な効果

項目	内容・理由
莖数の増加	主稈や早期分げつを一時的に抑制する芯止めの効果などによる。
倒伏の防止	節間伸長の抑制や草丈の短縮、稈基重の増大によるもの。
凍上害の防止	霜柱の発生による根の浮き上がり等による枯れ上りを防ぐ。
耐寒性と耐干性の強化	麦踏みにより葉が傷つけられ、それ以降細胞溶液の濃度が高まる。
生育の均一化	主稈や早期分げつの生育が抑制される反面、弱小分げつの生育が促進され全体として生育が揃う。

3 雪腐病の防除

県北部や高標高地帯など、根雪期間が長い地域では防除を行きましょう。また、例年発生している雪腐病の種類に応じて薬剤を選定しましょう。根雪は年によって変動が大きいので、散布時期を失ないように注意しましょう。

農作物技術情報の23年度定期発行は今号で終了となります。
 気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。
 ※ 発行時点での最新情報に基づき作成しております。
 ※ 発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

9月15日～11月15日は秋の農作業安全月間
 農作業 無事故でつなぐ 明るい未来